

2 他誌発表

新潟県における放射能調査

霜鳥達雄, 笠原貢, 昆信芳, 山崎興樹, 加藤健二, 藤巻広司, 丸田文之, 坂上央存, 殿内重政, 鈴木博之

前年度に引き続き, 平成16年度に実施した文部科学省委託の環境放射能水準調査及び放射線監視交付金による原子力発電所周辺の環境放射線監視調査について, 調査結果の概要を報告した。

調査結果は次のとおりである。

1 全ベータ放射能

定時降水等について測定したが, 各試料とも例年と同レベルであった。

2 空間線量率

柏崎刈羽原子力発電所周辺地域及び新潟市において測定したが, 各地点とも例年と同レベルであった。

3 核種分析

大気浮遊じん等について, ゲルマニウム半導体検出器により機器分析した結果, 海水等に ^{137}Cs を検出した。また, 放射化学分析により ^{90}Sr , ^3H , $^{239+240}\text{Pu}$ を検出した。これら検出された人工放射性核種は, いずれも例年と同レベルであった。

第47回環境放射能調査研究成果論文抄録集(平成16年度), 177(2005)。

3 学会等発表

Distribution of Cs-137 around Kashiwazaki-Kariwa Area:

Hisanobu Sakaue, Fumiyuki Maruta*, Hiroshi Fujimaki, Shigemasa Tonouchi (Niigata Prefectural Institute of Environmental Radiation Monitoring), Tetsuo Hashimoto (Niigata University), Asia-Pacific Symposium on Radiochemistry 2005 (APSORC - 05), October 17-21, 2005, Beijing, CHINA (Abstract book of Asia-Pacific Symposium on Radiochemistry-05, 284, 2005).

*原子力安全対策課

新 α/β 高速パルス間隔測定・解析による空气中放射性塵埃連続測定:

坂上央存, 殿内重政, 八幡崇(新潟大学理学部), 伊藤茂樹(㈱ゼットコスモス), 橋本哲夫(新潟大学理学部)

第7回「環境放射能」研究会, つくば市, 高エネルギー加速器研究機構, 平成18年3月9日(第7回「環境放射能」研究会要旨論文集, 2006)。

$\beta(\alpha)$ - α 相関事象のパルス時間間隔解析法に向けた複数高速パルス間隔データ処理測定及びリアルタイム表示システムの構築:

八幡崇(新潟大学理学部), 坂上央存, 伊藤茂樹(㈱ゼットコスモス), 橋本哲夫(新潟大学理学部)

日本原子力学会「2006年春の年会」, 大洗町, 日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター, 平成18年3月25日(日本原子力学会「2006年春の年会」要旨集IV, 90, 2006)。